

# せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成28年 2月 第180号 年間購読料1,000円 (1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

## 『定期巡回・随時対応型訪問介護看護の途』

### —地域の一員として終える人生を支えるケアの仕組みとして—

高齢者が地域の一員として生きて次の世代に社会を引継ぐ事を目指す「地域包括ケアシステム」において、『中核的な事業』と期待される『定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業』を4月より稼働させて行きます。

西欧諸国など世界共通の高齢者介護の原則は『自立・尊厳・参加・自己実現・ケア』の5つです。幸福度世界一の国「デンマーク」が老人福祉政策の理念とする『詩』があります。80歳の女性が作り、死後に発見されました。

#### 『人生の実りの冬』

子供がきょうも心配して来てくれる

風呂に入っていると世話してくれる

ひとりでアパートにいることを納得しない

心配してくれるのはうれしいが

できる限り自分の人生を歩いて行く

子供のいい分もわかる

オープンの火を消し忘れるかもしれない

でも私にとって

リスクのない人生はチャレンジも勝利もない

子供が小さいときキャンプに行くとき心配した

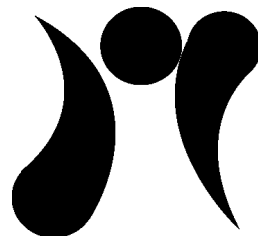
でも保護よりはチャレンジを選んだ

もうテーブルは回った

どうか介護の柔らかい手に包まないでほしい

日本の介護保険制度は、要介護者の生活リスクを可能な限り減らす為に『保護と管理と責任』を介護現場に強く求め、介護職は『柔らかい手に包む介護』にひたすら努めます。しかし西

(次ページへつづく)



(前ページのつづき)

欧諸国では、『リスクと向き合って自己実現を図る人生』を「適度な距離」で見守ります。老いて要介護になっても『自立』し存在として社会に『参加』し、『尊厳』を持って迎える『最期』を仲間に委ねて『思想と社会性』を育み養い、次の世代に引継ぎます。其処で「人生の果実」が収穫され、「新たな命」が芽吹いて育ち、死後にも歴史が続きます。

『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』は、『リスクと向き合う人生』に寄り添い、人生最後の『自己実現』となる『自らの命を終える営み』を、ご家族や近隣のご友人と『協働して適度な距離』で見守る、『ケア』の仕組みです。

まずは『サ高住』にお住まいの方をモデルにして事業を展開し、更に地域に広げたい、と願います。特養に入居の方が「サ高住」に移り、或いは「自宅」に帰る事も、視野に入れて運営します。ご支援下さい。

せいりょう園 渋谷 哲



## 結び(むすび)の家 KNOT(ノット)に参加して

ケアハウス施設長 入江良行



毎月第4日曜日11時～13時に、「加古川認知症と家族、サポーターの会」(加古川元気会)会長の家で認知症カフェが行われています。近隣の方、認知症当人や家族、福祉関係者、噂を聞いて遠方から来る方々等、50～60名の方が毎回集っています。

会員の婦人が集まり、地元の畑で採れた旬の野菜を使った料理を皆さんに振る舞います。青空の下、美味しい食事をいただきながら、介護の困り事などを他愛なく話す姿が、あちこちで見られます。話す事で自分自身が整理できる。笑顔になれる。前向きになれる。そんな空間が広がっているようにも感じます。

最後は、ハーモニカ演奏で皆さんが知っている童謡などを歌いながら終わりました。集う皆さんが、とても元気になれる場所です。

## テーマ「せいりょう園での看取り」について

現在は病院で亡くなる人が約8割ですが、つい40年くらい前までは在宅での看取りが多く、長い歴史の中では在宅で亡くなる事が主流でした。せいりょう園では特養の施設だけでなく、敷地内のケアハウス・グループホーム・サービス付き高齢者住宅で最期まで過ごされた方が大勢いらっしゃいます。

今回は、「看取り」について語り合いました。看取りの経験がある参加者の皆さんより、いくつか意見を頂きました。

「父と義母は病院で亡くなりました。死期が近い事は感じていましたが、家で看取る事に不安を感じました。病院なら看護師を呼べば直ぐに来て貰えるので安心できました。」

「夫の介護をしている時に、自分自身が体調を崩してしまい、家で介護が出来なくなり、病院で最期を迎える事になりました。夫は『家に帰りたい』と訴えていましたが、自分の体調が万全でなかった事と、看取りに対して不安があり、家に帰る事を叶えられなかった」

「妻は、ホスピスに2～3日間入って亡くなり、その後葬式をどうしたのかも覚えていません。あっけないと感じたが、妻が最期に『ありがとう』と言ってくれた事だけは鮮明に残っています。」

様々な意見や感想を頂きました。その後、母親を、せいりょう園ユニット型特養で看取りを経験された方より、その時の様子を詳しく語って頂きました。


「去年の10月に母が亡くなりました。父も数十年前の10月に亡くなっていた為、父が迎えに来たのかもしれないと思いました。亡くなる前日に介護職員から『いつもと様子が違います。』と連絡を受けて、行くと本人の容態が悪いので、そのまま泊まる事にしました。約1時間おきに身体の状態が変化していくことを実感しました。深夜2時過ぎぐらいには脈がとれない状態で、手足は冷たいが、胸のあたりに温かみを感じました。本当に眠るような最期でした。苦痛表情は殆ど見られなかったので、『死は恐くないんだ』と強く感じました。

しかし人間は、スーッととは、なかなか死ねない事も母を見て分かりました。看取りを経験出来たことは、私と両親にとって幸せな事です。私も延命治療を行わないで、自然に家で亡くなりたい。そして子供や孫たちに、自然に亡くなる姿を伝えていきたい。」と自分の想いを伝えて頂きました。

最後に、ケアハウス入居者の方より「私は子供も居ないし、独り身なので、今、住んでいる場所で、しらん間に眠るように亡くなれたらいいと思う。物が食べられなくなれば延命治療はしてほしくない。職員さんに亡くなってから、気づいてもらえるのが一番いいです。」との意見がありました。

人は必ず死にます。老衰で亡くなる方々は、自分の体内に残っている力を使い果たし、安らかな表情で最期を迎えられています。自身の終末を、どのように迎えるのか？住み慣れた地域で最期まで暮らす為には、覚悟も必要です。

老衰で自然に亡くなる姿を、皆さんにも知って頂きたいです。



## ご縁（前編）

柔道整復師及び合気道師範、高御位神宮神職 西嶋盛彦

せいりょう園と関わり始めたのは、2014年4月に人材の派遣事業などを行っている同級生の友人が会社の新しい事業として、せいりょう園敷地内のテナントで整骨院を立ち上げるに辺り、院長をやってくれないか、という打診からでした。

2011年の父の死、そして東日本大震災後から私の意識に大きな変化が起きました。テレビでは放映されていない放射能問題などがインターネット上では情報として広がっているが、自分自身で確認してみないと情報だけでは分からないと感じました。2012年末、世間から見ると順調に運営していた合気道の道場とスポーツ整骨院でした。2013年3月に整骨院を閉院し、合気道道場を父のお弟子さん達に任せて、全てを手放し、行く行くは福島で何か事業を立ち上げようと考えました。まずは現状を知るために寮のある求人募集を探し末端労働者として放射能除染作業員として福島に向かいました。

その頃に私の合気道師匠の友人が、以前千ヶ峰の白龍神社などを案内したご縁で、臨死体験の話しで盛り上がりながら、不食やフリーエネルギーの事など私がお伝えした事を自身の著書に書いてくれました。心の師匠でもあった「人は死なない」著者、東大医学部教授の矢作直樹先生にも、「現場作業などするのは春頃になると思いますが、またそのうち医学的な事でアドバイスやフォローしていただけると嬉しいです。」とメッセージを送ると「福島への支援誠にご苦労さまです。お勤め頭が下がります。自分にできることであれば微力ながらご助力いたしたいと思います。矢作」と返信をいただきました。これで最悪、放射能で被爆して死んでしまっても、その記録が残り、世間に影響力のある矢作先生が本に書いてくれるかな〜と心置きなく、福島に向かいました。しかし、その現状は正にこの社会の裏側をまざまざと見ることとなります。被爆症状で苦しむ人、子供を連れてお母さんが福島を離れ、お父さんは仕事のため福島に残り、経済を優先する父親と子供の命を優先する母親とで意見が相違し家庭が崩壊した話、現場作業員の突然死、利権構造による除染作業員からのピンハネ、使い捨て、挙句の果てには私自身が突然の解雇、しかも給料の未払い、警察の杜撰な対応・・・、その後ブラック企業との戦いが始まる事になるのですが・・・。

そんな事があった後、加古川に帰ってきて、私が持ち帰ってきた作業服などを測定してもらう事でご縁ができた阪神市民放射能測定所の測定員、その結果などをインターネット上で発信してご縁ができた神戸で放射線治療なども行う立場でそのリスクを提唱し、「人はなぜ平穏死できないのか」という著書も出し普段は在宅医療などを行っている井手クリニックの井手禎昭先生と、合気道の仲間などに間奏として音楽ライブを行いました。世間がいくらか東日本大震災や原発問題に目が向く頃に、加古川総合庁舎内かこむで「愛と調和 福島の現状と放射能による健康リスク」というイベントを行いました。神戸新聞などにも掲載され、自分の中でできる事はこれぐらいまで・・・と一旦福島の放射能問題から離れ、ボチボチちゃんと仕事をしなければ、と考え出した時に突然声をかけてもらったのが高御位神宮の跡継ぎ候補としての修行の話でした。この神社は高御位山の麓にある小さな神社なのですが、かつて合気道開祖植芝盛平翁が修行、道場を開いていた事もあり、その関係で父が立ち上げた合気道の道場では、正月には皆で高御位山の日の出参拝した後、神宮内で昇段授与式や奉納演武を行うのが恒例行事になっていました。一時前宮司が亡くなり、父も脳梗塞になり指導で

きなくなった事で会員数も激減し、その行事は途絶えていましたが、会員数も 100 名近くに  
戻り、父が亡くなる直前の 2011 年の正月を境にまたその行事を再開したご縁で有難い話を  
いただく事になりました。それまで御託宣という形で神様の言葉を出し、世界中から著名な方  
が訪れる白龍神社の池田艶子先生にその話を相談すると、「あんたが色々苦労してきたのはそ  
こに行くための修行やったから、何にも心配せんとそこに行きなさい、もう、整骨院なんか早  
く辞めてそこでがんばりなさい。嬉しい、嬉しい、こんな嬉しい事はないですよ。」と大変喜  
んでいただきました。その後、高御位神宮の宮司さんにお世話になる事になったのですが、そ  
の後に突然入ってきたお話が、このせいりょう園でのお仕事の話だったのです。

当初、自身の整骨院もやっていて、兄が経営しているファイテンのお店も手伝っていま  
した。整骨院の看板を掲げながらも、気功整体やヒーリング、カウンセリング中心の保険を使わ  
ない自費診療施術に変わっていた為、整骨院開業時に導入した 1000 万円以上の医療機器もほ  
とんど使っていませんでした。毎月 10 万円以上のリース費用が足枷になっていたので、その  
医療機器をまるごとそちらに持っていきました。管理柔道整復師として名前を登録して、午  
前中だけ少し顔を出す程度なら可能だと了承し、2014 年 8 月オープンを目標にスタッフ募集  
のため資格を持つ知人に声をかけたり、周囲の状況を調査したりしはじめました。ただ、実際  
に動いてみると、时期的にも有資格者を集めにくい時期だったり、立地的に賃貸料を払える  
だけの利益が出るか疑問だったり、とりあえず、8 月のオープンは先延ばしにしようと友人  
と話し合った際、現在働いている機能訓練指導員の先生が 80 歳を超える盲目の鍼灸マッサー  
ジ師の先生で、私の整骨院の近くに住んでいる人で引退を考えているので機能訓練指導員も  
募集しているという話でした。

「それって、もしかすると、私が 20 代の頃、学費を稼ぐ為に佐川急便で働いていた時、腰  
を痛めてお世話になった橋本鍼灸院の橋本先生？」と聞くと、その通りで、その歳でまだ働い  
ていた事に驚きました。これも何かのご縁と感じ、8 月からは午前中せいりょう園敷地内で開  
院する予定だった整骨院で働く気になりました。今まで中学生や高校生中心のスポーツをや  
っていた人を相手に対応していた事が多かったので、介護分野は脳梗塞になった父のリハビ  
リやその経験で頼まれて出張でリハビリに行っていたぐらいでした。ほぼ未経験だけど、先  
延ばしにした整骨院を開院出来るかどうか判断でき、「私でよければ 2015 年の春ぐらいま  
までは高御位神宮の事も急に何か頼まれる事もないと思う。午前中だけ機能訓練指導員と  
して入りませんか？それまでにフルタイムで働ける機能訓練指導（柔道整復師）できる先生を  
探していれば、高御位神宮の方で正式に頼まれた時も何とか出来るだろう。」と友人と話し  
合い、渋谷園長の面談を受け 2014 年 8 月から、せいりょう園の機能訓練指導員として働き出  
しました。

その後、初めて働く介護施設で今までにない衝撃の苦難が始まるのでした・・・つづく

**【せいりょう園空き情報 平成28年 2月17日現在】**

- ・サービス付き高齢者向け住宅「自愛の家さくら」：空きあり
- ・サービス付き高齢者向け住宅「リバティかこがわ」：4室
- ・ケアハウス：空きなし（バス・トイレ・キッチン付24㎡）
- ・グループホーム：空きなし
- ・グループホームまどか：空きなし

【問合せ先】 せいりょう園 TEL(079)421-7156 / (079)424-3433



## 仏教講話 2月1日（月）



### 浄土真宗 本願寺派 金照寺 衆徒 宰務清子師

今年度の仏教講話は、年が明けて2月がスタートとなりました。

最初の講話には、浄土真宗本願寺派金照寺衆徒 宰務清子師に来ていただきました。お二人の子育て中であり、お父様のご住職、ご主人が副住職、お母様とご自身が衆徒と、ご家族すべてがお寺と関わっておられるとの事です。布教使として16年、広く講話をなされておられ、これまで講話中に3人の方が体調不良で倒れたこともあり、「今日も心配しています。トイレに行きたい時には遠慮なく、そして眠ってもいいですよ。仏さんの話で安心されたんやなあと思います。」と気持ちをほぐしながらお話に入られました。

挨拶された後、お経を唱えられました。浄土真宗の經典に三部經があり、その中の『仏説無寿教』に48願が説かれています。これには、生きとし生けるものを救いたいという願いがたてられています。その要となるのが18願で、扇を手にされ、根本の18願から48願へと開かれてゆく様を示されました。

18願にはこう述べられています。

「私が仏になったとき、あらゆる人々が誠の心で信じ、喜び、私の国（浄土）に生まれたいと思って、たとえ10回でも『南無阿弥陀仏』と私の名前を唱えてください。それで、もし浄土に生まれるようなことができないなら、私は決して悟りを聞かない。あなた（生きとし生けるもの）と私（阿弥陀様）と一緒に仏になってゆく」と示されています。

#### 【仏様の心について】

仏の心は、『四無量心』という4つの計り知れないお心です。

- 4つとは、
- (1) 慈・・・ものを育む、育てる心
  - (2) 悲・・・他の悲しみを共に悲しむ優しい心
  - (3) 喜・・・他の喜びを我が喜びとする心
  - (4) 捨・・・私を捨てる、貴方と私の垣根を捨てる、1つにする心

1つ1つのお心だけでなく、『捨』のお心がすべてに関連しています。頭ではすばらしい4つのお心と分かっていても、現実にもそのように生きることは大変むずかしいとも話されました。そして、次のようなエピソードをお話してくださいました。

“私が京都で仏教の勉強をしていた頃に、友人から結婚の報告があった。学生時代はおとなしく、いつも自分の後ろにいた友人が努力して海外で仕事をし、会社の社長（それも二枚目）との結婚であったとのこと。勉学中でバイトもしている自身と置き比べ、「おめでとう」の気持ちと同時に、何か「もやもや」する気持ちがあったのが真実。その後、その友人からまた連絡があった。人から祝福された結婚だったが、「姑と義姉がきつくてね～」という話であった。

お祝いしたい気持ちも悲しみに寄り添いたい気持ちもあるけれども、それを聞いた時、「もやもや」する気持ちが一っとしていく自分があった。

仏の勉強しているのに、知識として四無量心を知っていても、なかなかそうなれない自分を知らされた。自分と他を区別してしまう。比べてしまう。仏とはほど遠い自分を知らされた。“・・・ということでした。

そういう私たちを思い心配して『南無阿弥陀仏』をふりむけてくださっているのです。

『ナモアミダブツ』は、インドの言葉です。単なるおまじないではない、仏様のお心がこもっている言葉なのです。『ミダ』とは、量のこと。計りということ。その上の『ア』とは、『ミダ』を否定する言葉、すなわち『アミダ』は『計り知れない心』ということなのです。(無量)

「限りある思いしか持てない人間、自分のことを中心に思う人間ですが、その私が阿弥陀様に仏様になってくれよと願われています。すべての想いのこもった『南無阿弥陀仏』を唱えながら、毎日毎日を大切に生かさせていただきたいと思います。」と講話を締めくくられました。公私ともにお忙しいなか、ありがとうございます。紅一点の講師として、再度の来所をお待ちしております。

2日後には節分立春の候なのですが、まだまだ寒い日が続きます。正月三が日はポカポカ陽気で、せいりょう園の利用者の皆様の初詣も無事お参りすることができたと思っていたその後、強烈な寒波襲来で日本全土が震えあがりました。1月23日の1回目の寒波で、私が住む加古川北西部は一面真っ白の銀世界！近くに住む同僚は、1時間かけて時速10kmの運転であちこちで車や自転車の横転を見ながら恐怖のなか出勤したのですが、加古川大橋を渡ったとたん雪はなく、せいりょう園に着いた頃には「雪降ってたんや〜」とみんなから言われたそうです。以前からたびたび寒さが厳しいと「雪降ったんとちがうの？」と冗談半分に言われていたのですが、今回ばかりは「ほんまに降ったんや」ということを信じてもらうのに真剣に伝えたそうです。その話を聞いて、何だかイソップ童話の『羊飼いと狼』を思い出して大笑いしてしまいました。

その2日後の大寒波では、115年ぶりに奄美大島にも雪が降り、各地でも被害の報道が続出していたにもかかわらず、山に囲まれ瀬戸内海に面した播磨地域では寒さ厳しかったものの、雪の気配は一向になくホッとひと安心でした。

古代より豊かな水路と温暖な気候で発展していったこの地方の自然の現象を思い起こした出来事でした。

去年はせいりょう園30周年、そして仏教講話がスタートして今年で10年目となりました。地域の方々にもぜひご参加いただいて、これからも心深める時間にしていきたいと思えます。今回は、3月7日(月)午後3時からの予定です。

### 【せいりょう園 特養待機者状況 平成28年 2月12日現在】

○入所判定済み者 220人

【内訳】要介護1	31名	要介護2	51名	要介護3	48名
要介護4	48名	要介護5	40名	不明	2名
【希望する特養】	地域密着型特養のみ		102名		
	ユニット型特養のみ		24名	両方	94名

特養入所条件については、県の「入所判定マニュアル」に基づき、要介護度3以上の方が対象となります。待機中の方で介護度変更した方、要介護度1・2であるが、在宅での生活が困難な方には、相談を受け付けています。

お急ぎの方は、お手数ではございますが、近況をお知らせ下さい。



平成28年1月29日（金） フラダンス



フラはハワイ語で「踊り」という意味です。古代ハワイ人が、海・風・花などのハワイの美しい自然を身体で表現しています。明るい色の衣装を身に纏い、ゆったりとしたハワイアンリズムに合わせて優雅に踊る姿を見て、一緒に真似て踊る方々も居ました。最後は参加者も一緒に踊りました。ゆっくりと体を動かすので、誰でも楽しく笑顔で踊れます。



### 厨房だより 管理栄養士 田村愛弓

2月も終わりに差し掛かり、寒さも少しずつ和らいできました。せりょう園では中旬頃から梅の蕾がほころび始め、今ではきれいな花を咲かせています。

3月に入ると山の幸や海の幸がおいしい季節になり、皆様この時期しか味わえない料理を楽しみにしてらっしゃると思います。また3月からは果物も旬を迎えおいしい季節となります。伊予かんやはっさく、ぶんたんなど柑橘類はビタミンCや食物繊維のほかにクエン酸も豊富に含んでおり、風邪予防や疲労回復に効果があるといわれています。今年の冬は温度変化が激しく知らず知らずのうちに身体に疲労が溜まり、暖かくなってくる3月に体調を崩してしまうかもしれません。季節の食材を食べて、身体の調子を整え気持ちの良い春を迎えましょう。



### 平成28年1月18日（月）29日（金） 親睦旅行



宝塚大劇場前にて

今年度の日帰り親睦旅行の1つは、宝塚ホテルで、ランチバイキング後に宝塚歌劇の鑑賞を行いました。

若い時、宝塚歌劇にはまり、何度も観劇していた女性職員が数人いました。その職員からの感想では、「数十年ぶりに見ました。本当に良かった。元気を貰いました。また頑張れます！！」との話を聞きました。